

## 樂土建設への歩み

——祖山學院雄辯大會優等第二席賞受領——

高等部二年 香 川 是 光

諸君！

現代に生息する我等に取りて最も切實に考へしめられる問題の一つは吾人等の世界の人文的將來であります。

人文的現象なる故唯自然の運命として斯く行くべしと斷定する事は出来なく、人間の力・人間の理想によりて斯くあらねばならぬと云ふ目的と努力が生ずるのであります。而らば日蓮主義の實義はこの世界の將來に對し如何なる指導原理を示してゐるでござらませうか。日蓮主義の宗教は一言にして云へば世界樂土の建設を目的とし一闍浮提に妙法流布し娑婆をして眞の寂光土への實現が日蓮主義主張の眼目であります。

法華經勸發品の於如來滅後闍浮提内廣令流布使不斷絶

の金言本化上行再誕吾祖が常に法華經の舞臺としての闍浮を主張し三大秘法悉く一闍浮提を自指してゐるはこれ即ち日蓮主義宗教の最後の目標は一闍浮提、吾等の世界の法華經化にあるを示せるものであります。而るに古來より幾多の宗教が己が宗教をあらゆる人類に信仰せしむべく努力し、傳道せしも皆その結果は一勢一衰、遂に宗教的統一と云ふことは云ふべくして行ふべからざる空想也と考へる傾向を生むに至つたのであります。然し乍ら諸君、世界全人類擧げて一つの正しい信仰に歸入せしむる事が出来ないと云ふ理由は何處に有りませうか。否——日蓮主義の宗教は如設修行抄の『天下萬民諸午一佛乘となりて——萬民一同に南無妙法蓮華經と唱ふる時』そ

の時を招來せねばならぬのであります。これ日蓮主義宗教が如何なる宗教をも爲し得なかつた大事をなさんとする別頭佛教たる所以であり、一天四海皆歸妙法の宗教たる所以であります。而らば世界を目標として開展する法華經化の實行運動は世界の何處を心棒として車を廻轉すべきやと云ふに事物展開の順序は必ず先づ以て其の急處中心より始まるべきであります。

これ吾祖が宗旨建立の基礎原理たる宗教の五義よりして、日本と法華經との切つても切れぬ關係を會談せられ『世界とは日本國也』と『又日は東より出で、西を照らす、眞の佛法必ず東土日本より出づべき也』と世界の急處中心を示し、法華經を全世界に流布するに先き立ちて先づ日本國を法華經の國とし法華經の本部を此の國に置き機能を世界中に押し弘るめんと絶叫せられし所以であります。

眼を轉じて今我々は現實の世界を觀察し深くその將來を思ふ時、今や佛教の精髓たる日蓮主義の宗教を、い

て世界の將來に對し堅固明確な指針を示し、今後の一切衆生を支配する信仰は無いと確く信するものであります。更に角度を變へ日本國の將來を考へる時に、日本建國の理想は日蓮主義の深遠なる教理に依りて原理付けられてゐるを痛感せざるを得ないのであります。明治維新以來六十年の短時日に於て日本が文明並に國際間に於ける位置は、いやが上にも高められ、今や全世界をリードすると云つて決して過言で無いまでに進歩し向上したのであります。先きに東洋否世界平和の爲に滿洲國の獨立を助け王道樂土を東洋の一角に出現せしめ、今又支那事變に於ける支那四億民の樂土建設への一殺多生慈悲の利劍を揮ひつゝあるは、世界文化史上重大なる意味を有してゐるのであります。これを單に日本の武力、經濟力によりてのみ爲され又爲されつゝあると考へるは大きな誤りであります。この力こそ日本を今日あらしめし偉大なる原動力、日本精神の正義の觀念が底力を發揮したるものにして、この道義の發露が世界の將來に及ぼす影響は想像

に余りあります。今や朝野舉げて國民精神總動員が叫ばれ、これが具体的に實行されつゝある今日、日本國民がこの日本精神の昂揚の上に更に日蓮主義の正しい信仰によりて人生國家の眞意義を堅持し、これを實踐躬行するならば其の力は幾層倍となりませうか——宗教的信仰の力が如何に驚ろくべき事業を爲すかは過去の事實に於て決して其の例乏しく無いのであります。日本全國が大信仰によりて統一せられ、王佛冥合の本門の戒壇建立し宗教的目的が直ちに國際的指導原理として運用せられし曉、世界に投ずる影響、衝動や如何に。法華經の教理

日本國体の道義と云ふものが天地の絶對的眞理であり、その人類救済の道が大公至正、大慈悲心の發露であるならば一切の人類がこの眞理と公正と大慈悲心の前に永久に同化し得ないでありませんか。即ち諸君、地上の樂土は空想に非ずして顯現の事象として建設せらるべきであります。

即ち、諸君日蓮主義宗教の安心とは世界樂土の建設成

就を信じ、寝ても醒めても之れが達成に全力を盡すと云ふ處に無限の勵み、無限の力が湧き勇氣と活力とに充ち／＼たる生活が營なまれるのであります。

想起せよ諸君、折伏逆化の法鼓打ち鳴し世界樂土建設の大理想實現の爲に勸持品色讀の吾祖六十一年の御生涯をば。今又東洋平和の爲に、友邦支那民衆の樂土建設へと北支に上海に正義の劍を揮ひつゝある尊き皇軍の姿をば。

最後に諸君、立正安國異体同心の祖訓を奉ずる吾等は世界樂土建設へ世界樂土建設へと確實なる歩みを一歩一歩ふみいだそうではありませんか。この雄しき樂土建設への歩みこそ國難に處する佛徒の使命なり、國是たる國民精神總動員の叫びに答へる眞の宗教家としての務めなりと絶叫して降壇するものであります。

—十月十六日公會堂にて—